



薬局だより



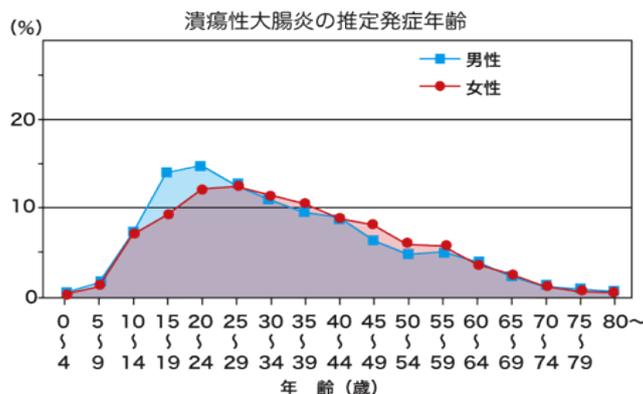
2026年1月

～潰瘍性大腸炎について～

潰瘍性大腸炎ってどんな病気？

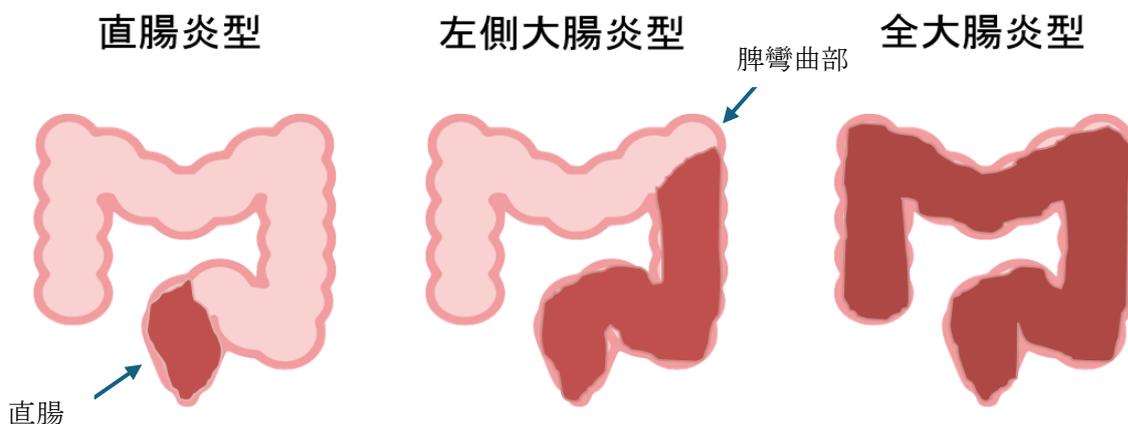
潰瘍性大腸炎(UC)は、大腸の内側の粘膜に炎症が起こり、潰瘍やただれが生じる病気です。症状は人によって様々ですが、主に以下の症状が見られます。

- 便に血が混じる
- 下痢や便秘異常
- 腹痛や腹部の張り
- 倦怠感、体重減少



難病情報センター：潰瘍性大腸炎(指定病 97)より

原因はまだ完全には解明されていませんが、免疫の異常反応や腸内細菌のバランスの乱れが関与していると考えられており、自己免疫疾患の一種とされています。発症年齢のピークは男性で20-24歳、女性では25-29歳にみられますが、男女差はなく、若年層から高齢者まで発症します。



潰瘍性大腸炎は、病変範囲により、

- ①病変が直腸に限局している“**直腸炎型**”
 - ②病変が脾彎曲部より肛門側に限局している“**左側大腸炎型**”
 - ③病変が脾彎曲部を越えて口側に広がっている“**全大腸炎型**”
- の3つに大きく分けられます。

治療の基本

潰瘍性大腸炎の治療は、症状の軽減と再発防止が目的です。治療には主に**薬物療法**が用いられます。



薬物療法の種類

薬の種類	代表的な薬(商品名)	役割・特徴	注意点
5-ASA 製剤 (抗炎症薬)	サラゾスルファピリジン (サラゾピリン) メサラジン (ペンタサ・アサコール・リアルダ)	炎症を抑える基本薬 軽症～中等症の維持・再発予防	副作用は比較的少ないが、腹痛や下痢が出ることも
ステロイド (副腎皮質ホルモン)	プレドニゾン (プレドニン) (水溶性プレドニン)	炎症を強力に抑え、中等症～重症の急性増悪時に使用	長期使用は骨粗鬆症や感染症リスクがあるため短期間で使用
免疫調節薬	アザチオプリン (イムラン・アザニン) 6-メルカプトプリン (ロイケリン)	免疫の異常な反応を抑え再発予防やステロイド依存の患者に使用	血液検査で副作用チェックが必要
生物学的製剤 (抗体治療)	インフリキシマブ (レミケード) アダリムマブ (ヒュミラ) ゴリムマブ (シンボニー)	炎症に関わる特定の物質(サイトカインなど)の働きをブロック 中等症～重症で他の薬が効かない場合に使用	感染症リスクに注意、定期的な通院が必要
小分子薬 (JAK 阻害薬など)	トファシチニブ (ゼルヤンツ) フィルゴチニブ (ジセラカ) ウパダシチニブ (リンヴォック)	細胞内の炎症シグナル伝達を阻害 即効性・強力な効果が期待される	感染症や血栓リスクに注意

- 治療は症状や病状に合わせて医師が組み合わせて行います。
- 薬を自己判断で中止せず、必ず医師・薬剤師と相談しましょう。

日常生活で気をつけたいこと **生活習慣で症状が悪化することがあります。**

- 食事は規則正しく、刺激物(アルコール・辛いもの・脂っこいもの)は控えめに
- 十分な睡眠を取り、ストレスをためすぎない
- 便や血便の変化をチェックし、異常があれば早めに受診
- 薬は決められた時間・量を守る



潰瘍性大腸炎は慢性的な病気ですが、適切な治療と生活管理で症状を抑え、健康な生活を送ることができます。気になる症状があれば早めの受診を忘れずに。

